

陸上自衛隊V-22オスプレイの 木更津駐屯地への暫定配備に係る現状等について

1. 陸自オスプレイの飛行経路・訓練内容の基本的な考え方について
2. 陸自オスプレイ部隊の概要について
3. 陸自オスプレイの木更津駐屯地への輸送について
4. 陸自オスプレイの佐賀空港への配備に係る状況について
5. 陸自オスプレイの木更津駐屯地到着後の受入点検について
6. 木更津駐屯地における陸自オスプレイの運用について(負担軽減の方向性等)
7. その他(松の木対策について)

陸自オスプレイの飛行経路・訓練内容の基本的な考え方について

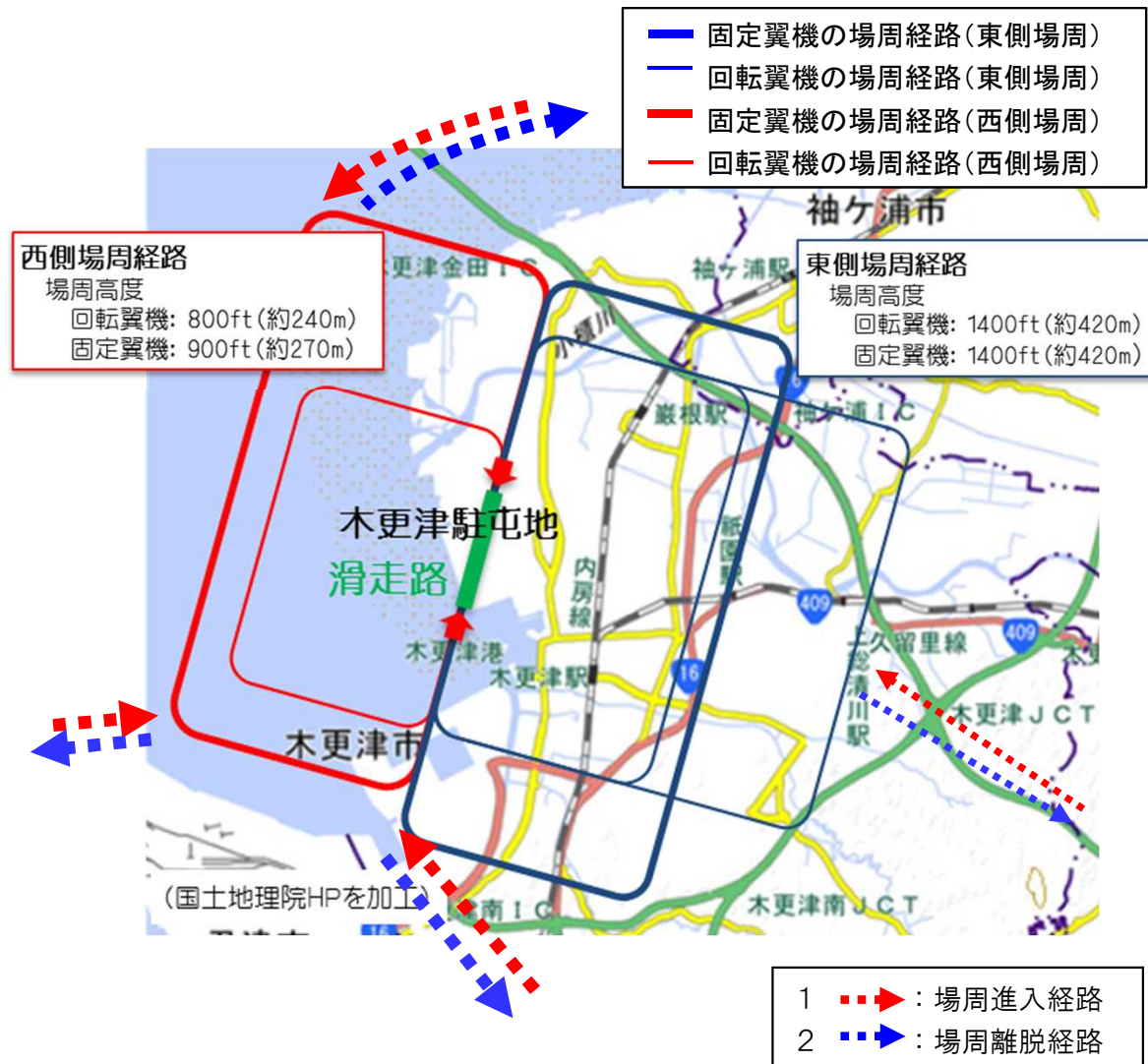
①木更津駐屯地周辺の飛行経路

【基本的な考え方】

- オスプレイの飛行経路は、CH-47などの木更津駐屯地に現在配備している航空機と同様になると考えています。

【基本的な経路（有視界飛行時）】

- 自衛隊機が使用する飛行場では、円滑な離着陸のため場周経路（じょうしゅうけいろ）を設定し、自衛隊機が滑走路への離着陸を行う際は、当該経路を經由します。
- 木更津駐屯地の東側は住宅地、学校などが所在しているため、騒音の面でご負担を生じさせないよう、オスプレイは原則、場周経路の大半が海上である駐屯地の西側を飛行することを考えています。



陸自オスプレイの飛行経路・訓練内容の基本的な考え方について

①木更津駐屯地周辺の飛行経路

【悪天候時の飛行経路（計器飛行時）】

- パイロットが目視で飛行（有視界飛行）する以外に、雲や雨などで視界が妨げられる気象状態では、木更津駐屯地に所在する他の航空機と同様に、国土交通省が定めた経路を飛行することを考えています。

■ 計器飛行時の「着陸」経路イメージ



■ 計器飛行時の「離陸」経路イメージ



注：作図上、国土交通省の航空路誌に示す経路と厳密に一致しないことがある。

陸自オスプレイの飛行経路・訓練内容の基本的な考え方について

②オスプレイの訓練内容

【基本的な考え方】

- いまだ暫定配備を行っていないため、今後確定させていきたいと思いますが、オスプレイの訓練内容・訓練場への飛行ルートは、CH-47などの木更津駐屯地に現在配備している航空機と同様になると考えています。

【訓練内容】

- 輸送機であるオスプレイは、「飛行場内で行うホバリング訓練」「飛行場及び周辺の空域で行う基本操縦訓練」「演習場等で行う部隊訓練」等を行うことを考えています。
- それぞれの訓練の詳細な構成は、要員の練度、その訓練で達成すべき目標、訓練規模、演習場等の特性等に照らして訓練ごとに計画することになります。



ホバリング訓練



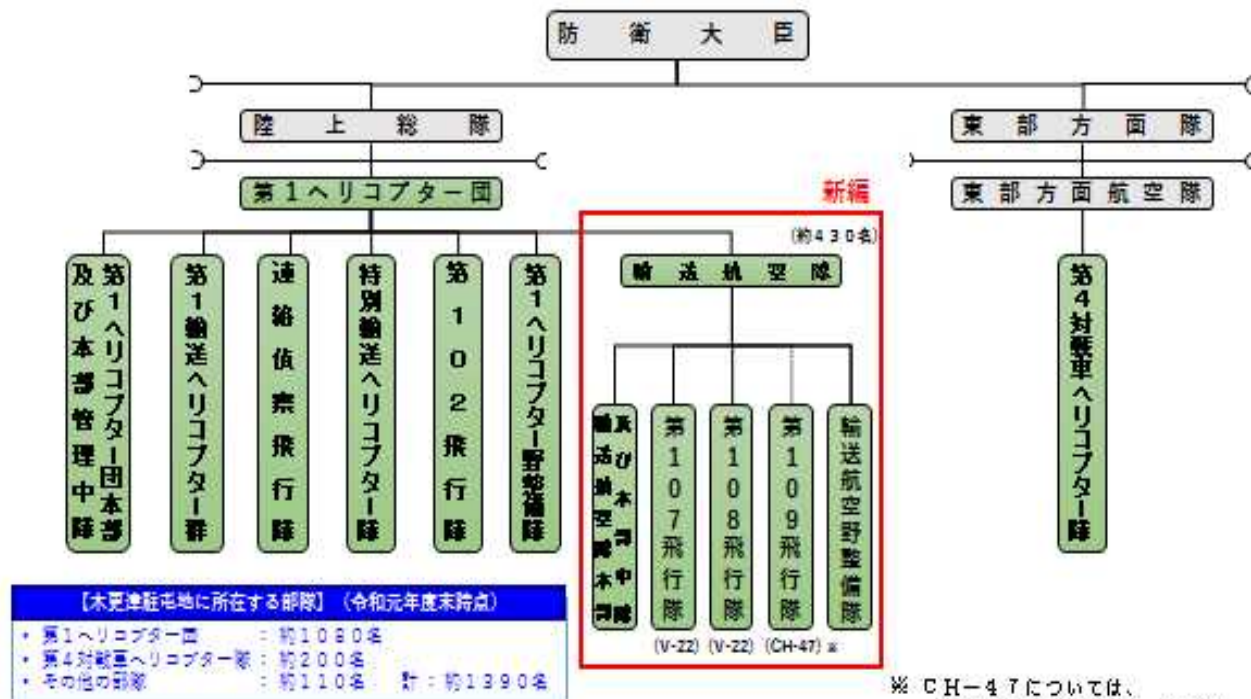
基本操縦訓練



部隊訓練

輸送航空隊の新編について

- 防衛省においては、島嶼部に対する攻撃への対応を念頭に、迅速かつ大規模な輸送・展開能力を確保し、実効的な対処能力の向上を図るため、陸上自衛隊の輸送ヘリコプター（CH-47）の輸送能力を巡航速度や航続距離等の観点から補完・強化し得るV-22オスプレイを順次導入中。
- 陸上自衛隊V-22オスプレイについては、相浦駐屯地（長崎県佐世保市）に配備している陸上自衛隊水陸機動団との一体的な運用を確保する等の観点から、佐賀空港を最適な候補地としているところ、島嶼防衛態勢の早期の確立のため、令和元年度末に、木更津駐屯地（千葉県木更津市）にV-22オスプレイを運用する輸送航空隊を新編。
- 今回の部隊改編に伴い、木更津駐屯地の定員は約1,050人（平成30年度末）から約1,390人（令和元年度末）と増員。



* CH-47については、高遊原分屯地（熊本県）に配置。

- 陸自オスプレイ2機を搭載した船舶は、5月8日、米軍岩国基地に到着し、同日、機体は岩国基地に陸揚げされました。
- 岩国基地において行うこととしている海上輸送のために施されていた保護処置の解除、飛行前点検・整備、試験飛行等については、新型コロナウイルスの影響でその実施時期が未定でしたが、米側から、今後の予定について情報提供がありました。
- 岩国基地において作業する米側要員は、既に米国から派遣され、現在、在日米軍施設・区域において、14日間の移動制限措置を受けているとのことであり、岩国基地での作業開始は6月下旬頃を見込んでいるとのことです。
- 岩国基地における作業は、通常であれば、1機当たり約2週間程度が見込まれ、順に1機ずつ木更津駐屯地に米側による飛行により輸送されるとのことであり、その時期は、現段階では、1機目は7月上旬頃、2機目は7月中旬頃の到着を見込んでいるとのことです。機体到着後、1～2ヵ月程度点検を行った上で確認のための飛行を行います。
- 木更津駐屯地への具体的な飛行日時については、確定した段階で改めてお知らせします。

V-22オスプレイ



岩国基地に陸揚げされた V-22オスプレイ



（米海兵隊提供）

木更津駐屯地における陸自オスプレイの運用について (負担軽減の方向性等)

令和2年6月19日
防衛省

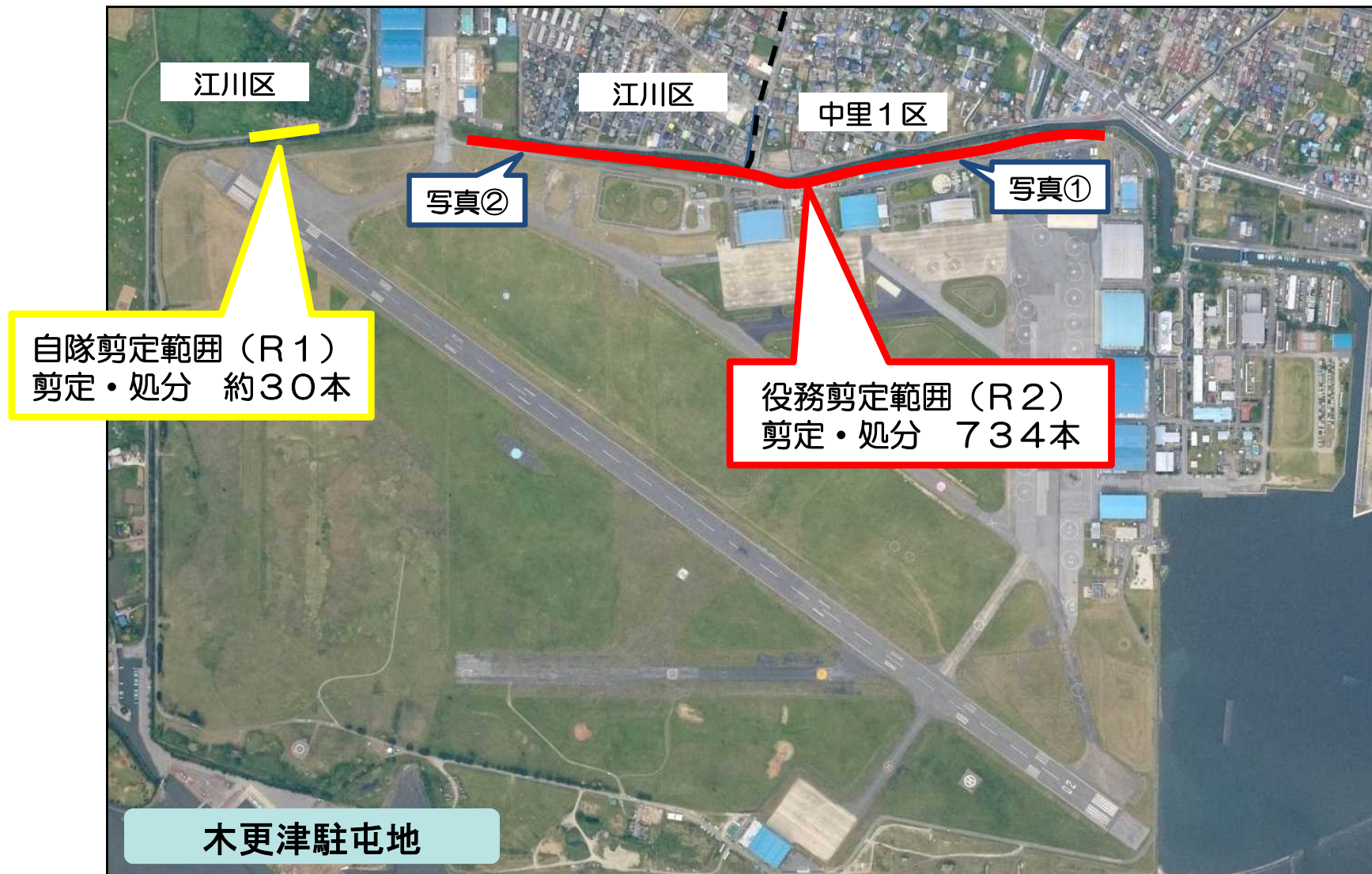
陸自オスプレイについては、木更津駐屯地に暫定配備するに当たって、同駐屯地周辺住民等の負担を軽減するため、防衛省としては、以下の項目について、引き続き、遵守・検討を行ってまいります。

- 陸自オスプレイの飛行運用に当たっては、航空法など関係法令を遵守
- 既存配備機と同様、運用上やむを得ない場合を除き、住宅地や市街地の上空での飛行を避けるなど安全面に十分配慮
- 運用上やむを得ない場合を除き、潮干狩り場など、木更津駐屯地の場周経路下等で実施される集客イベントに十分配慮
- 陸自オスプレイが固定翼場周経路を飛行する際には、離着陸時を除き、高度900フィート（約270m）を維持
- 場周経路は原則、西側を使用
- 木更津駐屯地内でのホバリング訓練は、住宅に近い場所での実施を制限する方向で検討
- より詳細な運用の在り方について検討し、本格運用開始前に説明
- 自衛隊機等の木更津飛行場への離発着回数の定期的な情報提供
- 木更津駐屯地における運用に関して、周辺住民の皆様の御負担を軽減させる方策について、引き続き、検討

木更津駐屯地松の木剪定状況について

令和2（2020）年6月
木更津駐屯地

- 周辺住民の方々からのご意見等を承り、今年の1月～3月にかけて、駐屯地の松の木の剪定を実施しました。
- 今後も引き続き、飛散した松の葉の清掃や松の木の剪定を実施し、住民生活に支障を来さないよう、確実に管理してまいります。



松の木剪定状況(写真)

剪定前

写真①



写真②



剪定後

写真①



写真②

